

平内町

在宅介護実態調査結果報告書

2019（令和元）年9月

青森県 平内町

目 次

第1章 調査の実施概要	3
1 調査の目的.....	3
2 調査の内容.....	3
3 報告書の記載方法.....	3
4 調査票の配布と回答状況.....	4
(1) 有効回答者数と有効回答率.....	4
(2) 有効回答者の年齢階級別の状況.....	4
(3) 有効回答者の属性.....	5
5 地域課題のまとめ.....	6
(1) 「小湊地区」の課題.....	7
(2) 「東地区」の課題.....	7
(3) 「西地区」の課題.....	8
第2章 在宅介護実態調査結果	11
1 ご本人（要介護者）の状況について.....	11
(1) 要介護者の介護度.....	11
(2) 要介護者の世帯状況.....	11
(3) 家族・親族による介護の頻度.....	12
2 主な介護者等の状況（属性等）について.....	14
(1) 主な介護者の状況.....	14
(2) 主な介護者の介護実態.....	15
(3) 家族介護のために離職した状況.....	16
3 支援・サービス・訪問診療の利用状況やニーズについて.....	18
(1) 在宅生活を続けていくための必要な支援・サービス.....	18
(2) 介護保険サービスの利用状況.....	22
(3) 罹患している傷病名と訪問診療の利用状況.....	24
4 主な介護者の就労状況について.....	26
(1) 主な介護者の勤務形態.....	26
(2) 継続就労者（フルタイム・パートタイム）の就労実態と意向.....	26

5	介護生活が続ける際の不安や困りごと	28
(1)	主な介護者が不安に感じる介護の内容	28
6	介護離職の要因について	29
(1)	主な介護者を取り巻く介護環境等	29
(2)	就業中の主な介護者に関する就労環境	33
(3)	要介護者の様態と介護実態	37
(4)	介護給付サービス等の利用状況	38
第3章 地区別分析		43
1	在宅医療・介護の推進	44
(1)	要介護者の状況	44
(2)	在宅医療に関するニーズ	44
(3)	訪問診療の利用状況	45
2	介護離職の要因と問題軽減	46
(1)	家族介護者の介護離職の状況	46
(2)	家族介護者の介護状況	48
(3)	介護給付サービス利用状況	50
3	住まいのニーズ	52
(1)	要介護者の施設入所意向	52
資料編		57
1	アンケート調査票	57

第1章

調査の実施概要

第1章 調査の実施概要

1 調査の目的

「平内町高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画」の策定にあたっては、介護者の介護実態を把握し、当町における地域を含めた課題整理を行い、今後目指すべき地域包括ケアシステム構築のあり方とサービス基盤の方向性を検討する必要があります。

本調査は、計画策定に必要となる将来推計の基礎資料を得ることを目的としています。

2 調査の内容

介護する家族に対するアンケートを実施し、「地域包括ケアの構築」という観点から介護給付サービスをはじめ各種類の「量の見込み」を設定するための基礎資料を得ることを目的とした調査内容となっています。

調査対象者	令和元年8月1日現在、平内町に居住する在宅で生活をしている65歳以上の総合事業対象者及び要支援・要介護認定者493人を対象	493人
調査方法	令和元年8月7日～令和元年8月23日 郵送方式による調査	
調査票の設計	I ご本人（要介護者）の状況について	2設問
	II 主な介護者等の状況（属性等）について	5設問
	III 支援・サービス・訪問診療の利用状況・ニーズについて	7設問
	IV 主な介護者の就労状況について	4設問
	V 介護生活を続ける際の不安や困りごと	1設問
	設問数合計	19設問

※調査票は資料編に掲載しています。

3 報告書の記載方法

集計表やグラフの%表示は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

また、各種テーマごとに関連する設問を集約し、分析を行っているために調査票の設問番号順の記載になっていません。グラフや表に記載しているタイトル番号は、調査票の設問番号を用いています。

報告書に記載している用語について、要介護認定者は「要介護者」として略称を用いています。

4 調査票の配布と回答状況

(1) 有効回答者数と有効回答率

本調査の回答状況は以下のとおりです。

表 1.1 在宅介護実態調査の回答状況

地区名	調査対象者数 (人)	調査票の配布数 (人)	有効回答数 (人)	有効回答率 (%)
町全域	493	493	256	51.9
小湊地区	276	276	155	56.2
東地区	116	116	52	44.8
西地区	101	101	49	48.5

(2) 有効回答者の年齢階級別の状況

表 1.2 町全域の性別年齢階級別有効回答者

単位：上段/人、下段/%

調査対象者	計	男性						女性					
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
在宅介護 実態調査	256	7	23	5	19	20	14	4	11	21	50	43	39
(要介護者)	100.0	2.7	9.0	2.0	7.4	7.8	5.5	1.6	4.3	8.2	19.5	16.8	15.2

表 1.3 「小湊地区」の性別年齢階級別有効回答者

単位：上段/人、下段/%

調査対象者	計	男性						女性					
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
在宅介護 実態調査	155	2	18	3	12	10	10	3	6	14	28	24	25
(要介護者)	100.0	1.3	11.6	1.9	7.7	6.5	6.5	1.9	3.9	9.0	18.1	15.5	16.1

表 1.4 「東地区」の性別年齢階級別有効回答者

単位：上段/人、下段/%

調査対象者	計	男性						女性					
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
在宅介護 実態調査	52	1	3	1	3	4	3	0	3	7	15	7	5
(要介護者)	100.0	1.9	5.8	1.9	5.8	7.7	5.8	0.0	5.8	13.5	28.8	13.5	9.6

表 1.5 「西地区」の性別年齢階級別有効回答者

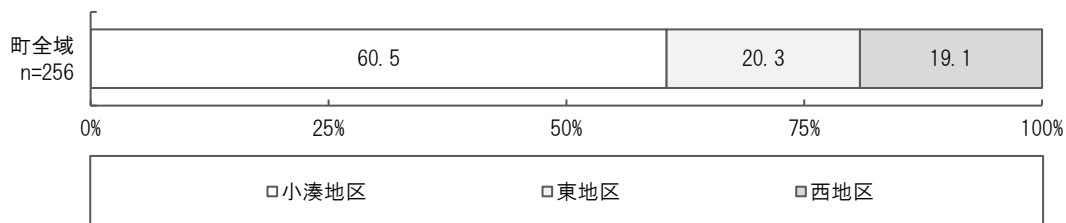
単位：上段/人、下段/%

調査対象者	計	男性						女性					
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
在宅介護 実態調査	49	4	2	1	4	6	1	1	2	0	7	12	9
(要介護者)	100.0	8.2	4.1	2.0	8.2	12.2	2.0	2.0	4.1	0.0	14.3	24.5	18.4

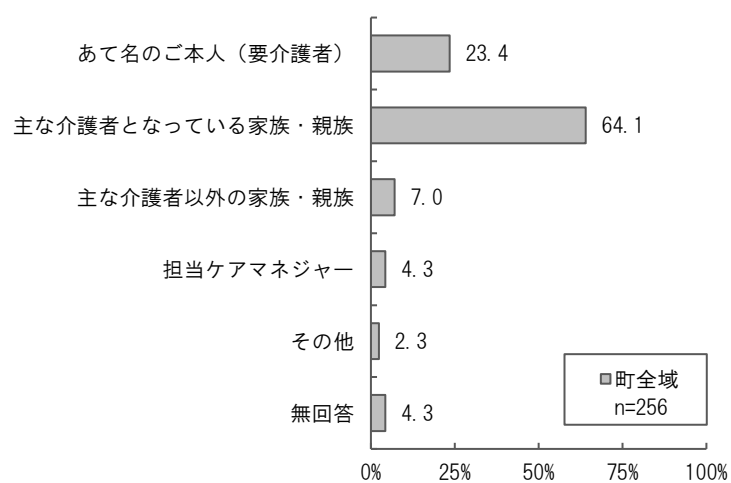
(3) 有効回答者の属性

本調査における有効回答者の属性は以下のとおりです。

図 1.1 圏域別回答者割合



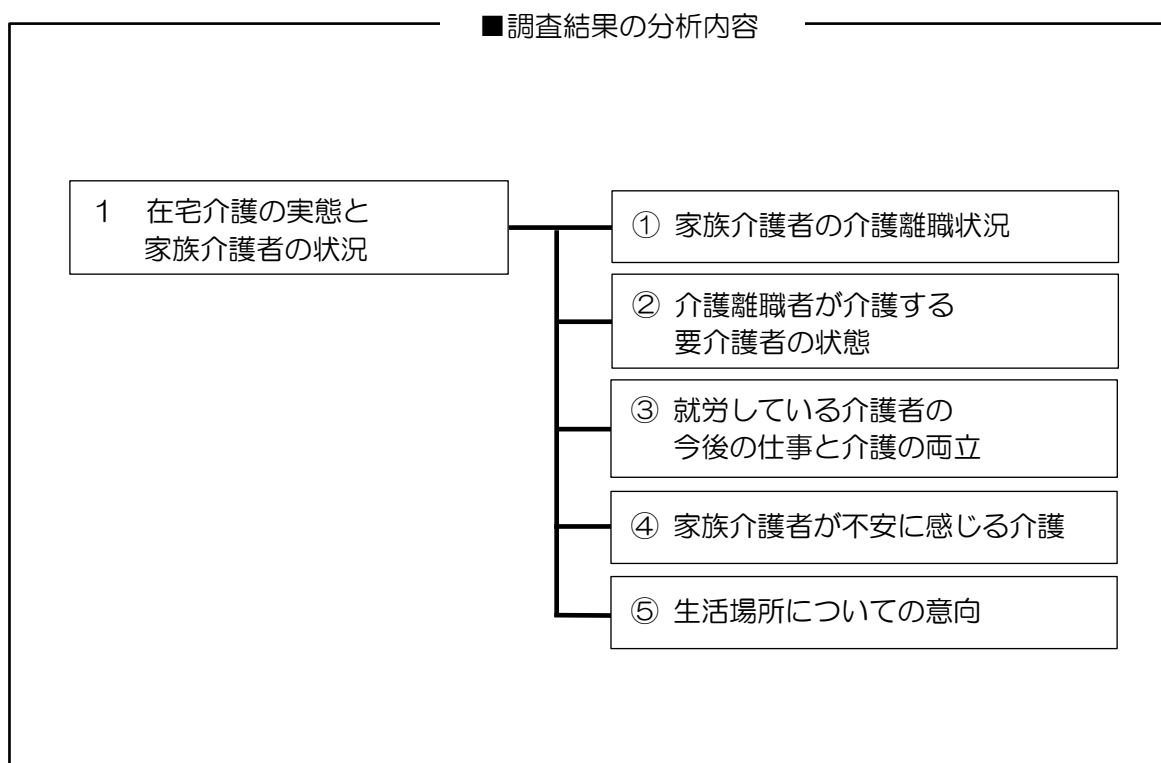
問 A 調査回答者



5 地域課題のまとめ

当町の地域課題の抽出にあたっては、調査結果から町平均値等を算出し、3つの地区の調査結果と比較しながら少しでもマイナスとなる数値等の分析項目を抽出し、町平均値との差を記載しています。

それぞれの分析項目に対しては、各地区が町平均値までに改善またはそれ以上に改善を目指す施策を検討できる調査報告書として作成しました。



(1) 「小湊地区」の課題

調査結果分析		主な課題
在宅介護の実態と家族介護者の状況	家族介護者の介護離職状況	○介護離職者の出現率が町全域より0.2 ^{ポイント} 高い。
	介護離職者が介護する要介護者の状態	○「認知症高齢者」の割合は町全域より11.5 ^{ポイント} 高い。 ○「単身世帯」の割合は町全域より2.8 ^{ポイント} 高い。 ○「その他世帯」の割合は町全域より6.5 ^{ポイント} 高い。
	就労している介護者の今後の仕事と介護の両立	○仕事と介護の両立を「(何とか)続けていける」方の割合は町全域より3.7 ^{ポイント} 低い。
	家族介護者が不安を感じる介護	○介護離職者が行う身体介護では、「日中の排泄」「食事の介助(食べる時)」「入浴・洗身」「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」「衣服の着脱」「服薬」「認知症状への対応」に不安を感じる割合が町平均値より高い。 ○継続就労者が行う身体介護では「日中の排泄」「食事の介助(食べる時)」「入浴・洗身」「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」「衣服の着脱」「屋内での移乗・移動」「服薬」「認知症状への対応」「医療面での対応(経管栄養・ストーマ等)」に不安を感じる割合が町平均値より高い。 ○介護離職者が行う生活援助では「食事の準備(調理等)」に不安を感じる割合は町平均値より高い。
	生活場所についての意向	○施設等への入所・入居を検討及び予定をしている介護度別割合は「要介護1」「要介護2」「要介護3」「要介護5」が町平均値より高い。

(2) 「東地区」の課題

調査結果分析		主な課題
在宅介護の実態と家族介護者の状況	家族介護者の介護離職状況	○介護離職者の出現率が町全域より9.1 ^{ポイント} 高い。
	介護離職者が介護する要介護者の状態	○「単身世帯」の割合は町全域より0.7 ^{ポイント} 高い。 ○「夫婦のみ世帯」の割合は町全域より9.3 ^{ポイント} 高い。
	就労している介護者の今後の仕事と介護の両立	○仕事と介護の両立を「(何とか)続けていける」方の割合は町全域より8.9 ^{ポイント} 低い。 ○仕事と介護の両立を「続けていくのは、難しい」方の割合は町全域より8.7 ^{ポイント} 高い。
	家族介護者が不安を感じる介護	○介護離職者が行う身体介護では「夜間の排泄」「入浴・洗身」「外出の付き添い、送迎等」に不安を感じる割合が町平均値より高い。 ○継続就労者が行う身体介護では「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助(食べる時)」「外出の付き添い、送迎等」に不安を感じる割合が町平均値より高い。 ○介護離職者が行う生活援助では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」に不安を感じる割合は町平均値より高い。 ○継続就労者が行う生活援助では「食事の準備(調理等)」「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」に不安を感じる割合は町平均値より高い。
	生活場所についての意向	○施設等への入所・入居を検討及び予定をしている介護度別割合は「要介護4」が町平均値より高い。

(3) 「西地区」の課題

調査結果分析		主な課題
在宅介護の実態と家族介護者の状況	家族介護者の介護離職状況	○特に課題等は見当たりません。
	介護離職者が介護する要介護者の状態	○「要介護3～5」の割合は町全域より30.7 ^{ポイント} 高い。 ○「認知症高齢者」の割合は町全域より24.0 ^{ポイント} 高い。 ○「夫婦のみ世帯」の割合は町全域より42.7 ^{ポイント} 高い。
	就労している介護者の今後の仕事と介護の両立	○特に課題等は見当たりません。
	家族介護者が不安を感じる介護	○介護離職者が行う身体介護では、「屋内での移乗・移動」「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」に不安を感じる割合が町平均値より高い。 ○継続就労者が行う身体介護では「夜間の排泄」「屋内での移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」に不安を感じる割合が町平均値より高い。 ○介護離職者が行う生活援助では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」に不安を感じる割合は町平均値より高い。 ○継続就労者が行う生活援助では「食事の準備(調理等)」「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」に不安を感じる割合が町平均値より高い。
	生活場所についての意向	○施設等への入所・入居を検討及び予定をしている介護度別割合は「要支援1」「要支援2」が町平均値より高い。